

学校情報連絡メールの見直しについて

1 現在の学校情報連絡メールシステムの課題

- (1) 学校便り等の添付ファイルを送付できない。
- (2) 既読確認機能がなく、緊急連絡時には、別途、電話等で既読確認を要する。
- (3) 双方向機能がなく、出欠確認の連絡やアンケート調査ができない。
- (4) 翻訳機能がなく、日本語を母国語としない保護者への対応が困難である。

2 新たなメールシステムの効果（現行メールシステムとの比較）

- (1) 保護者の利便性の向上
 - 出欠の連絡が24時間可能となる。
 - 添付ファイルの受信(学校便りや問題プリント等)が可能となる。
 - メニュー等の外国語(英語・中国語・スペイン語)が表示できる。
 - 各種翻訳ソフトに対応しているため、容易に翻訳できる。
 - 休校などの臨時的措置を含む学校スケジュールをリアルタイムで確認できる。
- (2) 教員の働き方改革の推進
 - 保護者の出欠連絡がシステム化されるため、教員の電話対応が不要となる。
 - 保護者が連絡を読んでいるか否かを確認できる(緊急連絡時に電話での既読確認が不要になる。)
 - 出欠状況を一括出力し、簿冊として管理できる。
 - ペーパーレス化により、学校便り等の印刷及び配布作業が軽減できる。
- (3) 経費節減
 - 欠席連絡専用ダイヤル設置による通信費の節減及びペーパーレス化による印刷経費の節減が見込まれる。

3 利用開始

令和3年11月(予定)

モデル校については、9月から準備ができ次第、順次開始する。

モデル校：小学校2校(緑小学校、梅若小学校)

中学校3校(錦糸中学校、本所中学校、両国中学校)